

NO. 1	議席番号	氏 名	質問事項・要旨及び答弁者
	9	竹 田 努	
<p>1. 高齢者の命を住宅火災から守る施策について</p> <p>町民の健康、命、生活を守るために全力を尽くし、いつまでも安心して生活できるよう、災害や孤独死等の防止にさまざまな対策を取ることが、高齢者に優しい町づくりを目指すことだと考えます。</p> <p>近年、高齢者が犠牲になる住宅火災が後を絶ちません。総務省の2022年版「消防白書」によると、火災による全国の死者数の7割を65歳以上が占めており、道内も同様の傾向とのことであります。また、死者の約5割は逃げ遅れて亡くなっています。</p> <p>特別豪雪地帯の地域指定を受ける当町でも、寒さ対策で夜通しストーブをつけている家庭もあり、高齢とともに認知症も増加傾向にあると思われまますので、なんらかの対策が必要と考えます。</p> <p>平成23年6月から住宅用火災警報器の設置が義務化され、町内の設置率は70%とのことですが、高齢者世帯の設置状況も把握できていないのが実態です。</p> <p>これらの状況に鑑みて、火災から命を守るため住宅用火災警報器の設置が必要と考えますが、町長の見解を伺います。</p>			町 長
<p>2. 令和5年度町政執行方針について</p> <p>鈴木町長就任以来、新型コロナ対策をはじめ、子育て支援策、一次産業支援策等を実践し、特に漁業者チャレンジ応援補助事業については、漁業従事者から大変喜ばれていると思います。</p> <p>任期の集大成の年、水道料基本料金の5年間の軽減措置をはじめ、新規事業も目に留まり、町長の目標とする「今と未来を守るために挑戦する町政」の意気込みを感じております。</p> <p>そこで、令和5年度町政執行方針から、下記項目について町長の見解を伺います。</p> <p>(1) 「第7次木古内町振興計画」の策定については、団体からの推薦と、公募により選出された3名で「まちづくり委員会」を構成し、向こう10年間の木古内町の進むべき方向性の協議を進め、町民の声を一つでも多く聞き取り、反映させていくと明記されています。そこで、まちづくり委員の任務と役割、また、振興計画策定までのスケジュールと業務委託との連携について伺います。</p>			町 長

(2) 令和4年度から「産み育てるなら木古内町」のイメージを定着させることとしていますが、画期的な施策だと感じております。令和3年度から「出生祝い記念品」、令和4年度には「第3子以降加算」。これらの施策が移住・定住につながることを期待するところです。国も少子化対策として子ども予算を倍増する予定であると報道されております。

また、新たに母子保健事業で、産後ケア事業を実施するとのことであり、先に述べた出生祝い事業と一体的に進めるべきではないかと思っております。

このため、人口増加施策と子育て支援施策、また母子保健事業等、実施にあたっては、各担当課同士の連携が必要なプロジェクトだと思われま。したがってその方向性を示したビジョンの作成が必要と考えますが、町長の見解を伺います。